

埼玉大学電気・電子工学科 同窓会会報

# さい久流

Vol. 4



平成4年6月発行

埼玉大学電気・電子工学科同窓会

〒338 浦和市下大久保255

TEL. 048-851-2111 (内線2260)

FAX. 048-855-0940

(印刷 雄文社)

## さいくる Vol.4 発行にあたって

会長 村田 昌市（電気73年度）

会員の皆様いかがお過ごしですか、お元気で御活躍の事とお慶び申し上げます。昨年、埼玉大学電気・電子同窓会25周年記念式典を兼ねた総会を東京池袋にて開催しましたが、大変多くの方の出席をいただき盛大に挙行できましたこと深く感謝申し上げます。

さて昨年の総会において平成3年度の活動計画の中で承認いただきました同窓会報「さいくるVol.4」をここに発行いたします。従来の「さいくるVol.1-3」は同窓会記念誌として発行されておりましたが、今年より年会報としての位置づけも付加していきたいと考え、編集委員会にて年会報の目的を次の3項目とすることに致しました。

1. 従来の記念誌ではカバー出来ない内容を基本とする。
2. 会員相互の親睦と同窓会活動への理解を深めていただく一助とする。
3. 大学と会員、会員相互のコミュニケーションの場を提供する。

以上の目的を踏まえ本号の内容を a. 前年度総会報告 b. 学内トピックス c. 研究室紹介 d. 収支決算報告 e. 新会員住所録（'91.'92.3月卒業の方） f. その他 といたしました。これらの内容について皆様の意見・アイデアを総会出欠はがき等にて大学内・同窓会事務局までご連絡いただければ幸いです。今後の参考にさせていただきたいと思っております。

いままでの同窓会活動が基盤づくりと考えれば、これからはさらに内容の充実を図る段階と位置づけられると思います。世の中では1,800労働時間、公務員・学校の週休2日制、社会貢献活動等いままでとは違った考え方が急速に広がりつつあり、個人の自由になる時間が確実に増えてくるようです。皆様におかれましては本同窓会の活動にその一部を振り向けていただき、益々発展できますよう一層の御協力をお願い致します。

## 平成3年度 総会報告

- 電気電子同窓会発足25周年にあたる平成3年度の記念総会が、池袋のホテルメトロポリタンにおいて6月29日に121名の方々が出席して盛大にとりおこなわれました。これも学部・研究室の先生や皆様方の絶大なご支援の賜物と大変感謝しております。以下に総会の概要を報告させていただきます。

- 冒頭 村田会長により ここ数年の活発化してきた同窓会活動の概要の紹介と今後の抱負の表明がなされました。

主任教授の方々（電気 小林教授・電子 山田教授）には「埼玉大電気・電子OBとして自信をもった活躍を期待し、同窓会を通じてより一層の親睦を深めて欲しい」とのありがたいおことばを頂戴いたしました。

また長年同窓会の会長として活躍された前島副会長が同窓会の顧問になられ新しく堀副会長にバトンタッチされました。

前年度の事業報告と本年度の計画の部では、会長から同窓会記念誌「さい久流」の発行と同窓会報の刷新計画が目玉として紹介され出席の方々の承認を得ました。

最後の会計担当の荒木さんによる会計報告が全員一致で承認され記念総会は無事終了いたしました。

- 総会終了後 ホテル内で懇親会が行なわれました。最先端で活躍されているOBも？十年前のスライド映写には大はしゃぎ。会場内はいつまでも熱気に包まれていました。

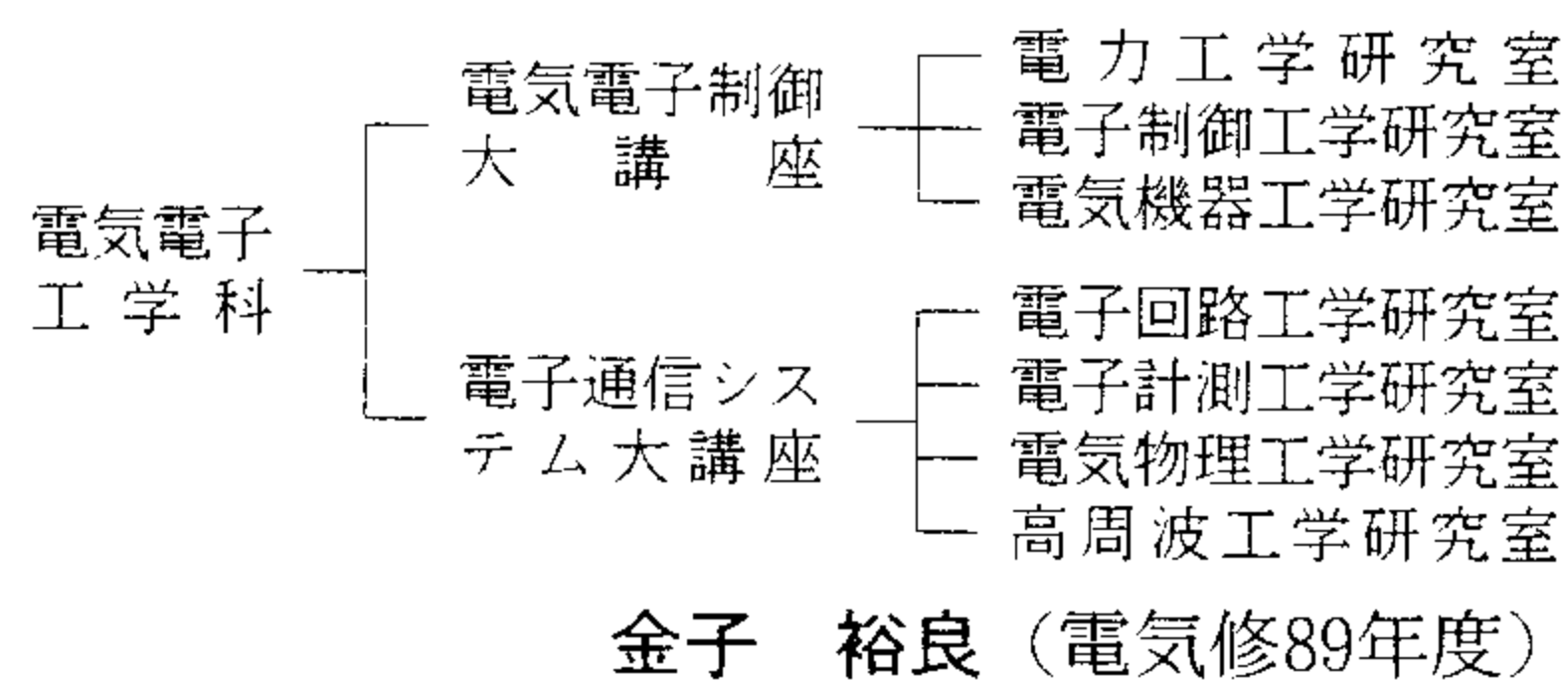
- 今後の同窓会のますますの発展を願いながら簡単ですが平成3年度総会報告とさせていただきます。ありがとうございました。

荒牧 修一（電子76年度）



## ■学内トピックス■

平成4年度より工学部の学科改組が行われ、従来の電気工学科および電子工学科、環境化学工学科の3学科が廃止され、電気電子工学科および機能材料工学科の2学科が新設されました。電気電子工学科には旧電気工学科の全講座と旧電子工学科の3講座（電子回路工学、電子計測工学、電子制御工学）が移行し、機能材料工学科には旧電子工学科の1講座（電子基礎工学）と旧環境化学工学科の1講座（環境化学基礎）が移行しました。また電気電子工学科では下記のように旧学科の7つの講座が2つの大講座（電気電子制御、電子通信システム）の基、7つの研究室として再編成されました。機能材料工学科には旧電子工学科の山田教授、鎌田助手および後閑技官と旧電気工学科の井門助教授が移籍され、旧電子工学科の平塚助教授は電子通信システム大講座の電気物理工学研究室に移籍されました。



## 研究室案内

大多数の会員の皆様は、卒業以来母校を訪れる機会も少ないかと思えます。そこで、この会報を通じて母校の研究室の活動状況を順次紹介していこうと思えます。広範なエレクトロニクス技術の中で、各々の研究室がユニークな研究成果を上げています。今回は、大嶋先生と小林（嬉）先生の研究室を紹介します。

大嶋研では、溶接技術を中心に、画像処理やロボット制御まで幅広く研究を展開しています。特に、従来不可能と考えられていたMIG溶接の溶融池の観測に成功した事は、高く評価されております。大嶋先生はこれに関して溶接学会から1988年に論文賞を受賞なさっています。最近では、ファジィ制御、ニューロ制御といった新しい方法も溶接技術にいち早く取り入れ、数多くの興味深い成果をあげられていま

す。また、留学生の人数も多く、ペルー、中国、韓国と国際色豊かな雰囲気を出しているのも大嶋研の特色の1つかと思います。

小林研では、先生の本学着任以来一貫して、誘電体共振器とフィルタの研究を続けています。当初は、温度特性が大変悪くまた損失も大きい材料しかなかったため、回路の小型化というメリットはあっても実用化は困難とされてきました。しかし、1970年中頃から日本を中心として良好なセラミック材料の開発が進み、ついには数万のQ値を持ち、しかも温度係数0 ppmという誘電体共振器が実現しました。現在では、これらは自動車電話を始めとして各種の高周波回路・装置に広く使われています。小林先生は、この分野の第一人者として誘電率測定法とフィルタ設計法を開発してきました。20年余りの一連の研究に対して米国IEEEより誘電体モードの規格委員長を任命されたそうです。

荒木 純道（電気70年度）

## 天野名誉教授勲三等に叙される

昨年11月3日（文化の日）天野名誉教授が勲三等旭日中綬章の栄誉に叙されました。埼大電気系学科では初めての受章との事で誠に目出度い事と改めて紙上を借りてお祝い申し上げます。

祝賀会は12月7日（土）中野サンプラザで天野会（天野研OBの会）の主催により盛大に開かれました。当日は大嶋教授もお祝いに駆けつけて下さいました。又OBの長老級は20数年振りの再会と言う方も多く天野先生ご夫妻を中心に歓談の輪が続き本当に盛大な会となりました。

記念撮影の後お開きとなりましたが、尽きない話しの延長戦に各年代毎に場所を変え夜遅くまで楽しい時が過ごされた様でした。

天野会代表 前島 暁（電気68年度）

